

平成28年4月15日  
受信環境クリーン中央協議会

電波障害防止に関する功労者の表彰について  
— 個人8件に対し —

受信環境クリーン中央協議会（会長：竹田義行 一般財団法人情報通信振興会理事長）は、電波障害防止に関し、顕著な功労のあった次の個人に対して表彰を行うこととしました。

なお、表彰式は、来る4月20日（水）午後5時15分からKKRホテル東京「孔雀の間」で行う予定です。

【個人】

(順不同、敬称略)

表彰の種類	被表彰者	実績の概要	推薦委員
表彰状 (永年の努力・功績)	いまむら まさひこ 今村 雅彦 (元NHK職員)	アナログ時代からデジタル時代まで電波環境の維持改善に関わる業務に尽力した。特に、建造物による反射障害の分析には欠かせない予測ツールや測定器を開発し、業界全体に予測技術を普及させた成果は極めて顕著である。デジタル時代においてもデジサポの立場で移行業務に適進するなど、長きに渡りクリーンな電波環境の維持に大きく貢献した。	日本放送協会
表彰状 (永年の努力・功績)	とみき たけし 富木 威 (日本電設工業(株)情報通信本部ネットワーク工事部マルチメディアグループ主事)	入社2年目からCATV事業者からのテレビ電波受信障害対策業務に携わり、現在までの約16年間テレビ電波受信障害対策のエキスパートとして積極的に努めてきた。 東北・上越新幹線のテレビ電波受信障害対策共聴施設や首都圏の多くの共聴施設の加入者を対象に地上デジタル放送への移行に対する国の方針や施設の改修方式等を丁寧に説明し予定どおり完了させた。 首都圏エリアの難しい新幹線沿線のテレビ受信障害施設及び高層ビル建設に伴うテレビ受信障害施設の整備を、地上デジタル放送への移行に遅れを生じさせることなく完了させたことの功績は大である。	東日本旅客鉄道(株)
表彰状 (永年の努力・功績)	すずき やすお 鈴木 保夫 (イスマ設備設計(株)代表取締役社長)	昭和55年にイスマ電機産業を設立し、以来テレビ電波受信障害の調査業務、受信障害改善工事の設計業務及び施工に携わってきた。 平成7年(社)日本CATV技術協会関東支部に入会後、施工部会を通じて一貫してテレビ電波障害改善対策の調査・施工に関わり、平成8年より施工部会幹事、平成20年より施工部会副部会長、平成26年より関東支部幹事として、部会等を通じてテレビ電波障害改善の普及・向上に貢献した。	(一社)日本CATV技術協会
表彰状 (永年の努力・功績)	はちや まさし 蜂谷 政志 (有)盛岡テレビサービス 代表取締役)	半世紀以上にわたりテレビ、ラジオの受信相談や調査、その対策を行うなど受信障害の解消に精力的に取り組み、特に建造物障害や難視聴地域の受信改善、電気雑音による電波障害の解消などに努めた。 また、高度な知識と豊富な経験を生かし、JR在来線の電化に伴うパルス障害の調査・対策を実施した。 電波障害調査の経験が豊富なことから、放送事業者だけでなく県内の多くの電器店からも相談を受けるなど長年にわたる放送受信障害改善に対する貢献は大きいものがある。	東北受信環境クリーン協議会

表彰状 (永年の努力・功績)	にしむら もとまな 西村 元雅 (日本CATV技術協会 中部支部事務局長)	NHK入局以来、受信相談対応を通じた調査技術の向上や改善手法の確立に貢献し、衛星放送・ハイビジョンの黎明期においては、新しいメディアの受信システム普及と課題解決に尽力した。また、テレビ放送のデジタル化が進展する中、各種受信調査や共聴施設の建設・保守の推進を通じ技術の向上に貢献した。さらに、平成22年から日本CATV技術協会中部支部の事務局長を務め、建造物による受信障害の防止と確実な対策を推進するほか、中部支部域内の受信相談業務を一手に請負い、良好な受信環境の維持に多大なる貢献を果たした。	東海受信環境ク リーン協議会
感謝状 (永年の努力・功績)	いしい のりお 石井 則雄 (岡山市立興除中学 校 教諭)	受信環境クリーン図案コンクールの意義を深く理解され、平成18年から10年間にわたり、美術教諭として所属中学校の生徒を指導し、総計2000点を超える作品応募を実現した。 特に難しいテーマを表現させるため、応募対象を2年生以上とし、主旨を理解した上で描かせることで毎年100点以上の安定した応募に結び付けている。 これらのことは、電波障害防止に関して多大な功績を有すると認められる。	中国受信環境ク リーン協議会
感謝状 (永年の努力・功績)	うえきこ ひるゆき 上迫 博幸 (今治市立吉海小学 校 校長)	美術に対する高い見識を生かし「受信環境クリーン図案コンクール」の審査委員として平成10年度から平成13年度まで及び平成22年度から平成27年度までの10年間もの長きにわたり審査を担当し多大な貢献をした。 特に平成22年度からは審査委員長として図案コンクールに応募された多くの作品の中央推薦、地方入賞の審査及び最終選考に尽力した。 同氏が四国受信環境クリーン協議会の業務の遂行に多大な貢献をした功績は誠に大きいものがある。	四国受信環境ク リーン協議会
表彰状 (永年の努力・功績)	しのはら こうじ 篠原 耕司 (一財)NHKエン 지니어リングシス テム)	40年にわたり放送受信技術の技術指導業務に携わり、受信環境クリーン協議会各県連絡会の事務局を歴任するなどテレビ・ラジオの良好な受信環境の維持・改善、電波障害防止に貢献した。特に、福岡タワーへの移転対策等では、受信対策の円滑な実施に向けて多大な成果をあげた。 また、退職後も、「難視地区の受信改善」や「デジタル化に向けた受信調査業務」に精力的に取り組まれ、受信者指導や現地調査に尽力した。 さらに、九州各県のテレビ・ラジオの難視聴地区の受信改善に向けて、これまでの長年の経験を生かして、調査業者や関係業界の指導役として受信環境の維持・改善に寄与している。	九州受信環境ク リーン協議会

【団 体】推薦なし。

<参 考>

受信環境クリーン中央協議会では、本件表彰を昭和34年(1959)から毎年実施しており、今回で58回目となります。

連絡先：受信環境クリーン中央協議会 事務局  
(一般財団法人 情報通信振興会内)  
(電話03-3940-3981)

## 「受信環境クリーン協議会」の概要

電氣的雑音による放送受信への妨害に対する取組みは、戦前から行われていましたが、戦後、ラジオ放送と家庭電化製品の急速な普及に伴い、本格的な電氣雑音防止対策への要望が各方面から高まり、昭和25(1950)年から26(1951)年にかけて、各地方で自然発生的に地方協議会が次々に誕生し、その中央機関として昭和29(1954)年に「受信障害対策中央協議会」が設立されました。

その後、無線局や建造物によるテレビ・ラジオ放送電波の受信障害に対しても取組みを展開し、名称変更を経て、今日に至っています。

### 1 目的

電氣的原因などによる放送など無線通信の受信障害(「電波障害」と呼んでいます。)の防止を図り、もって電波利用面における公共の福祉を増進することを目的としています。

### 2 組織

任意団体として、中央協議会(会長:一般財団法人情報通信振興会理事長 竹田義行)、全国11ブロックごとに地方協議会(会長:民間放送会社社長など)が設立されています。

また、地方協議会の内部組織として38府県に府県連絡会が置かれているほか、地区連絡会が置かれているところもあります。

各協議会は、関係官公庁、地方公共団体、放送事業者、関連業界団体・企業などから構成されており、各団体から推薦された委員をもって運営されています。

### 3 主な事業活動

#### (1) 放送電波受信障害の相談受付

広く国民視聴者等からの放送電波受信障害に関する様々なご相談に応じています。

#### (2) 周知広報活動

放送電波受信障害防止に係る知識の普及と理解の促進のため、ポスター、放送、ホームページ(<http://www.clean-kyou.com>)などによる周知広報活動を行うとともに、リーフレット、出版物などを発行・頒布しています。

#### (3) 「受信環境クリーン月間」の設定・実施

例年10月1日から31日までの1か月間、中央協議会、地方協議会、府県連絡会などが一体となって、放送電波受信障害防止キャンペーンを集中的に実施しています。

#### (4) 「受信環境クリーン図案コンクール」の実施

全国の中学生を対象に、放送電波受信障害防止等に関する図案を募集し、優秀作品は、キャンペーン用ポスター、放送などに使用しています。

#### (5) 条例、指導要綱などの制定の働きかけ

地方公共団体に対して、建造物による放送電波受信障害防止に関する条例、指導要綱などの制定・充実について働きかけを行っています。

#### (6) その他

セミナー・講習会・研修会の開催、放送電波受信障害防止に関する個人・団体功労者の表彰、調査・研究などを実施しています。

構成図（平成28年4月現在 順不同）

